

第17回計画策定・推進部会(令和元年10月2日開催)における主な意見

■人材の確保、資質の向上について

- 賃金を全産業の全体水準に合わせて引き上げていくことが大事であると同時に、女性の多い職場でのライフ・ワーク・バランスの推進や働きやすい環境の整備、働き甲斐をいかに得られるかというところが重要
- 子育て中の潜在保育士の中に良い人材がいる。短時間の勤務で、子育てをしながら保育士として働けるとよい。
- 保育士の確保に当たっては、各園のホームページの充実なども含め、ICT活用により、学生などに有効な情報発信をすることが必要
- 保育士の資質向上に当たり、保育を公開して学び合うという内容の研修を充実させることも必要

■学力・体力向上について

- 育成すべき資質能力の3つの柱には、知識・技術等のほか、学びに向かう力・人間性等もあるので、数値化できない子供の育ちをどう担保して強化していくかも重要
- 高校生男子の体力テストの結果が下がっているのは課題

■障害児支援・外国につながる児童への支援について

- 医療的ケア児の支援は、単独の施設等ではできない。訪問看護ステーションとの連携などが前提であり、関係機関連絡会の取組は重要
- 多動などの行動障害のある児童については、成長に伴い学校や家庭での対応が困難になってくるケースがある。児童発達支援センター等の児童福祉施設職員が受講する強度行動障害支援者研修の実施規模を増やすなどにより、重度の児童へのケアの充実を図ることが必要
- 外国につながる児童への日本語指導等を行う一方、外国につながる児童のよりよい生活につなげるため、多文化共生について学ぶことも必要

■子育てしやすい環境整備について

○ライフ・ワーク・バランスの推進の課題として、中小企業における取組推進を挙げているのは的を射た視点である。中小企業の経営者を動かしていくことと合わせ、幅広い年齢層のニーズに配慮していくことが必要

○女性も男性も輝く社会を実現するために、男女が協力して家事、育児を担う必要があるが、男性の家事育児への参画を支援というよりも、男性の家事育児を支援という考え方が必要

○保育所などにおける散歩時の事故防止のために、安全基準の設定などを国が検討することなどが必要。また、学校の登下校時の見守りを保護者や区市町村教育委員会、警察、地域などが連携して取り組むことが必要